

## EGU General Assembly 2024 参加報告書

氏名：魏辰然

所属：環境学研究科地球環境科学専攻

大気化学研究室 D3

滞在期間：令和6年4月14日～4月19日

滞在先：ウィーン

滞在国内：オーストリア

私は2024年4月14日から19日にオーストリア・ウィーンで行われた欧州地球科学連合2024年大会に参加した。12月15日にはセッション“Sources, Formation, and Properties of Organic Aerosols”で“Characteristics of the Fluorescence of Water-Soluble Organic Matter in Atmospheric Aerosols under Different Environments in Japan”というタイトルのポスター発表を行った。

本研究では、蛍光特性とエアロゾルの種類との関係を理解する手段として、さまざまな環境における水溶性成分の蛍光特性が研究されています。さらに、分光蛍光光度計と高分解能飛行時間型エアロゾル質量分析計を使って大気エアロゾルと雨水中の有機成分の蛍光性と化学成分の比較と組み合わせ、エアロゾルおよび雨水中の化合物に関する詳細な情報を取得でき、有機エアロゾルの水相化学反応とエイジングを説明する化学反応を取得できます。

今年のEGU24は現地で開催され、私は実際に現地に参加しました。研究者の方々と対面で十分な時間とスペースをもってコミュニケーションを図り、多くの交流を得ることができました。今回の会議は私にとって初めての国際会議であり、国際的に研究成果を発表する素晴らしいチャンスでした。世界中の学者の方々が行っている興味深い研究を拝見できる機会でもあり、他の学生と交流する素晴らしい機会でもありました。ポスター発表を通じて、自分の研究の魅力や成果を研究者の方々に紹介しました。多くの質問を受け、質疑応答を通じてリスナーと対面でコミュニケーションを図り、自分の発表や研究の長所や不足について多くの意見をいただきました。また、同世代の学生とも多く交流し、大きな刺激を受け、励みになりました。

この会議では、地球科学の全分野をカバーする多くの興味深い発表があり、分野の現状を広く把握するのに役立ちました。私にとって、地球科学をさらに深く学ぶ非常

に貴重な経験でした。その中で、特に興味を持ったのはマイクロプラスチックに関連する研究です。マイクロプラスチックは大気エアロゾルの中にも存在し、都市エアロゾルの中や極地地域にも存在しており、人類の生存環境に深く影響を与えています。私の研究も北極に関わっているため、この研究の発展に引き続き注目し、その知識を将来活用できればと思います。

最後に、名古屋大学ISEE国際連携研究センターによる若手海外派遣支援プログラム関係者のみなさまに心より感謝申し上げます。今回の派遣の費用の一部には、故上出洋介名誉教授のご遺族から宇宙地球環境研究所にいただいた寄付金が充てられました。ここに感謝申し上げます。

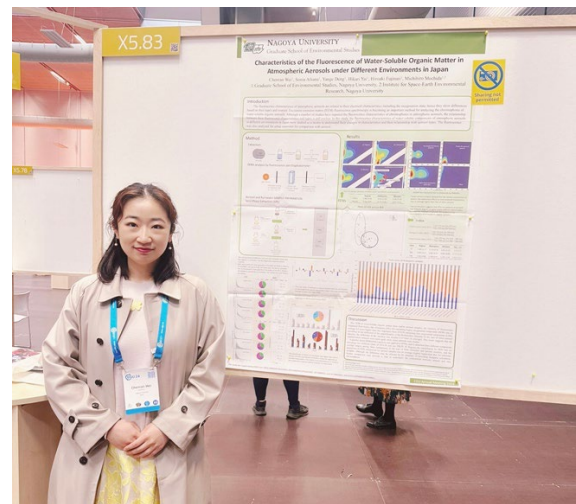


図1 ポスター発表の様子

### <指導教員>

持田陸宏